

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902561		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホームあけぼのIV		
所在地	旭川市曙3条6丁目1番14号		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が元気で過ごせ、安心して生活出来る空間を提供できるように、気配り、信頼される職員を目指し、自己研鑽や健康管理に気をつけている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902561-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 1 月 30 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市中心部の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームです。母体病院や同一法人のグループホームも同じ地区に位置しています。建物は共用空間が広く快適で、浴室やトイレ、エレベーターなどバリアフリーが行き届いています。訪問診療の体制が整い、管理者も看護師の資格を持つなど、利用者や家族にとり医療面で安心できるのが特徴です。介護計画の面では、アセスメントシートの充実やきめ細かなモニタリングに基づく計画の見直し、計画目標に沿った日々の記録の作成などの面で優れています。職員同士の連携も良く、法人全体で各種の委員会を設置し、職員がそれぞれ委員としての役割を持って運営に参加しています。重度化した場合の対応については、ホームでの看取りの他にも入院や他の施設の紹介など法人全体で支援体制を整えています。介護度の高い利用者が増えてきていますが、外出や入浴など、個々の希望に沿ったサービスを提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域を含め、事業所や各部門との関わりを『繋がる』と表現し、職員で共有し実践につなげている。	職員が意見を出し合って作り上げた理念の中の「個々を尊重し、繋がるグループホーム」という文言に地域との関わりを大切にすることを込めています。理念を共用部分に掲示し、朝夕の申し送り時に唱和して共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の散歩や町内清掃、行事に参加し交流に努めている。	利用者と一緒に町内会の焼き肉会に参加したり、祭りの神輿が来る際に見物しています。また、職員が清掃活動や祭りの手伝いをしたり、町内会婦人部がホームの見学に来ています。小学生との交流も計画しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を利用し、認知症に対する理解や対応方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加している、地域包括支援センターや他の事業所から意見を参考に、サービス向上に繋げている。	会議は概ね2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員や有識者、利用者家族が参加しています。ただし、地域の方の参加はほとんど得られていません。防災や食中毒、虐待、サービス評価などテーマを設定して話し合っています。	町内会役員や民生委員など、会議に地域の方の参加が継続的に得られるよう、引き続き取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや他の方包括支援センター、成年後見人制度等を通し、市担当課などと連絡を取りながら協力関係を築いている	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、集団指導などでも行政担当者と情報交換しています。最近では、成年後見人制度について市に助言を得ています。管理者が小学校の総合学習の講師として協力しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や夜間から早朝以外の施錠は行っていない。身体拘束を行うないケアを目指して行っている。身体拘束を行う場合は、管理者、計画作成担当者、介護リーダー等と話し合い、家族の承諾を得るようになった。	身体拘束はなく、禁止の対象となる具体的な行為を記した小冊子を職員に配布し、勉強会等で理解を促しています。玄関は日中は施錠せず自由に入出することができ、ユニットから玄関ホールへのドアにセンサーをつけ、出入りがあればわかるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修への参加、勉強会を開催により職員も理解し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度が必要な家族や希望する家族に対し、簡単な内容や専門機関を紹介し、結果、制度を利用に繋がったケースもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約に疑問はないか確認している。書面を読み上げるだけでなく、例え等を上げ説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の相談窓口を設けているが、運営推進会議や面会の機会を利用し、意見や要望を聴き、運営の反映している。	家族が来訪した際や電話連絡した際に意見を聞き、得られた意見は連絡ノートで共有しています。法人で2年に1回程度、満足度調査を行っています。また、3ヵ月毎にホーム便りを作成し、利用者の様子を家族に伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ホーム会議を開催し管理者が、職員からの意見や提案を聴き、検討が必要な場合は、代表者に伝達し相談、結果は職員に伝えている。また、代表者とも意見交換できる機会を設けている。	月1回、全体会議とユニット毎の会議があり、活発な意見交換がなされています。年に1度、個人面談も行われており、法人のエリア担当者にも意見を伝えることができます。職員は安全対策、接遇、教育、感染症などの委員会に属し、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社独自の評価表を用い、会社が一括管理しているが、管理者と密に情報交換を行い、職場環境の整備等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員評価表を基に力量を判断している。内部研修を機会を設けたり、力量にあった外部研修会への参加を積極的に推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修会、運営推進会議の機会を利用し、他のホーム等と交流し、参考になる意見を運営に積極的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と計画作成担当者が中心となり、入居前に面談しアセスメントツールを利用しながら要望等の聴き取りを行っている。同時に事前見学も勧め、職員も面会できる機会を設けるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と計画作成担当者が中心となり、入居前に面談しアセスメントツールを利用し、要望等の聴き取りを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問時得た情報からアセスメントを行い、対応方法を決定し、本人、家族に確認する。場合によって、ショートステイからの入居や他の事業所との連携を図っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を確認し、買い物や下膳、洗濯物畳み等をお願いしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族もケアの担い手である」ことを伝え、家族もケアへの参加をお願いしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望された時は、電話や外出を行っている。	知人や友人の来訪があり、利用者が電話を掛ける際にはダイヤルするなどの支援をしています。希望に沿って、銀行やコンビニエンスストア、そば店などへの個別の外出に同行しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	円滑に人間関係が行くように職員が仲介に入っている。また、人間関係に配慮した食事の席にしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も、家族と面会したり、電話等で連絡している。また、相談や訪問を受ける場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち制をとり、センター方式を使用し、希望や意向を把握している。困難な場合は、家族等リレーションセンタードケアの考えで対応、本人本位に努めている。	希望を言葉で表現することが難しい方も家族からの情報などを参考に把握しています。センター方式のアセスメントシートを定期的に更新し情報共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集し、センター方式にまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活シートを活用し、日々の過ごし方を記録している。心理的に不安定な場合は、専用の用紙も併用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち介護員、計画作成担当者を中心に、日々の記録を参考に本人や家族等から情報を収集、それを基にアセスメントしながら介護計画を作成している。	介護計画は6ヵ月毎、または随時の更新を行っています。モニタリング表をもとに評価を行い、担当医や家族の意見も反映したサービス担当者会議とユニット会議を経て、次の計画を作成しています。生活シートの計画実施結果の欄で計画目標に沿った記録を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活シートを日々の様子と介護計画の結果とに区分しを記録、勤務前に読むことにより情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ全体の機能を生かし、医療依存度の高い利用者や身体的に重度な利用者にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店や飲食店で、利用者自身が買い物や食事が出来るよう理解を求め、実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をとっている往診医と連絡を密にとり、本人や家族の希望を伝えている。必要時、ホームでかかりつけ医、家族を交えて話し合う機会を設けている。	提携医による月2回の往診があり、その他の通院もホームで支援し、家族の同行を得ることもあります。受診内容は個人ごとの生活シートに記録し共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の為、情報提供や相談、対応が出来る状況にある。必要時、かかりつけ医と連絡をとれる体制を整えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を書面にまとめ、情報を提供している。入院中は、MSWや家族を通し入院中の情報を収集、退院時の準備を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、終末期のあり方の希望を必要な場合は主治医を混せて確認している。状態が変化した時は、再度主治医、家族を交え、方針を再確認し、チームで支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」と「看取りに関する指針」を説明し、書類を取り交わしています。重度化した場合も対応できる訪問診療体制を整えており、過去に看取りも経験しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、普通救命講習を受講することになっている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	必要時、ホーム・管理者から連絡し近くの事業所や病院に協力して頂くようにしている。災害時は火災訓練を基本とし対応し2階に避難することになっている。	年2回、夜間の火災を想定した避難訓練を消防の協力のもと行っています。職員の救急救命訓練も定期的な受講され、水や食料などの備蓄品も用意しています。火災以外の災害対応の確認はまだ十分ではありません。	地震など火災以外の様々な災害の対応についてもマニュアルやチェックシートを活用し、職員全員が会議などの際に定期的に確認することを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関するマニュアルや接遇マニュアルを基に利用者の対応にあたっている。	「さん」づけを基本に利用者の人格を尊重した声かけをしており、接遇マニュアルに沿って人格を尊重した対応を心がけています。記録は事務所のカウンターで行い、個人ファイルは事務所に適切に保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に対し、自己選択できるような場面や質問の仕方をするように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを重視し、食事や入浴時刻等を調整している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等利用者が選択できるように支援している。必要時化粧の支援もしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に味見をお願いしたり、好みを聴いてメニューに反映したりしている。食事前のテーブル拭きや下膳も行っている。	利用者がテーブル拭きや食器洗い、食器拭きなどを手伝っています。ホームで献立を作り、夏場は利用者も食材の買い出しに同行し、畑で採れた野菜も食卓に乗せています。職員も利用者と同じ食事を一緒に摂っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活シートを活用し、食事量、水分量を確認しながら確保している。必要時、血液検査データも参考にしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアができるよう、誘導、見守り、介助を行っている。必要時、利用者に応じたオーラルケアを準備している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活パターンを調べ、利用者にあったトイレ誘導時間やリハビリパンツ、パットを選択している。	全員の生活シートに排泄状況を記録しパターンを把握して、誘導や声掛けが必要な方はさりげなく誘導しています。全員がトイレで排泄できるよう支援しており、トイレ入り口に暖簾をかけるなど羞恥心に配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜など、食事を中心に便秘予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後を中心に、入浴支援を行っているが、希望により午前中や夕食後も対応している。	毎日、午前午後とも入浴可能で、各利用者が週2～3回程度入浴できています。入浴を拒む場合でも、誘う職員を代えたり、前日から伝えておくなどの工夫で入浴に繋げています。入浴の長さを個々の希望に合わせています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールでも休息が取れるように、ソファを多めに設置している。疲労感が強い時は居室で休息をとってもらっている。必要時は畳の上で休まれている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を活用し、理解を深め、主作用、副作用等を確認、状態観察や変化の参考にしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品の提供や気分転換の材料として提供、支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望を聴き、外出したい時間に、出掛けられるように支援している。必要時家族に協力をお願いしている。	日常的にホームの周辺で散歩をしたり、コンビニエンスストアに出かけています。個々の利用者の希望に沿って、そば店や喫茶店に出かけたり、通院帰りに寄り道をしています。年間行事では初詣でや花見、花火見物などを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者には、お金を持参して頂き、可能な場合は、支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡や電話を希望する利用者に対し、電話を代行するなどしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を定期的に測定、不快な音を立てないように注意している。窓から景色が見られようになっている。	食堂とリビングスペースが一体的で広く、畳の小上りもあり、利用者はソファでゆったりと過ごすことができます。また、事務所やキッチンから全体を見渡すことができるようになっています。季節の装飾や植物などがあり、浴室やトイレも使いやすく、温度や明るさも調整されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を多用し、一人で居られる場所や利用者同士が腰を掛けられるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、ご家族と相談し、利用者は活動しやすいよう工夫している。必要な物品は家族に依頼し利用者が使い慣れた物を持参して頂いている。	居室の入口には暖簾が掛けられ、室内には利用者の使い慣れたテレビや椅子、戸棚、ぬいぐるみなどの小物を自由に持ち込んでいます。壁にも家族の写真、カレンダーなどを自由に飾りつけしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者の動線を考慮し、手すり代りになる物やテーブルや椅子の間隔を考え配置している。		